

〔論 文〕

地域における小規模ミュージアムの 事業展開への一考察

——安中新田会所跡旧植田家住宅の取り組みを事例として——

和 泉 大 樹

I はじめに

本稿は、地域に根ざした規模の小さなミュージアムにおける事業展開について考察を加えようとする論考である。

平成30年(2018)2月、「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案」、「文部科学省設置法の一部を改正する法律案」が、第196回通常国会に提出され、衆議院及び参議院において可決された。前者は平成31年(2019)4月1日から、後者は平成30年(2018)10月1日より施行されることが決定した。これらの法改正は、これからの時代にふさわしい文化財の保存・活用を図るべく行われるもので、「指定・未指定の有無にかかわらず地域の文化財を総合的に保存・活用すること」、「首長部局が文化財保護に関する業務を担当することが選択可能であること」、「博物館に関する事務を文化庁が一括所管すること」などを内容とするものである¹⁾。まさに、文化財・博物館行政の画期になると考えられるが、この動きは文化財や博物館に対して、「心豊かな国民生活の実現に資することはもとより、個性あふれる地域づくりの礎にもなることから、地域振興、観光振興等を通じて地方創生や地域経済の活性化にも貢献すること²⁾」が顕著に意識された結果でもあった。

ところで、博物館法の第2条によれば、「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般

公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究することを目的とする機関³⁾」であると定義がなされている。また、ICOM(国際博物館会議)は、博物館を「社会とその発展に貢献するため、人間とその環境に関する物的資料を研究、教育及び楽しみの目的のために、取得、保存、伝達、展示する公開の非営利機関である⁴⁾」と、ユネスコ勧告(2015)では「社会とその発展に奉仕する非営利の恒久的な施設で、公衆に開かれており、教育と研究と娯楽を目的として人類と環境に関する有形無形の遺産を収集し、保存し、調査し、伝達し、展示するもの⁵⁾」と定義される。これらの定義によれば、レクリエーション、楽しみ、娯楽などが博物館の目的として想定されているが、これらに関しては、教育などの分野に比すれば、さほど議論されてはこなかった。

以上のような現況からは、今後、地域振興や観光振興、レクリエーション・楽しみ・娯楽などの観点からの研究の進展が期待され、自身でも研究課題として捉えているところである。その端緒として、本稿では、「地域」というコンテキストで地域に根ざしたミュージアムの事業展開に着目し、その有効な事業展開などについて考察してみたい。観光振興などを論じる際にも「地域」への眼差しは不可欠であると考えからである。なお、本稿では、大阪府八尾市に所在する安中新田会所跡旧植田家住宅における取り組みを事例として取り上げて、論じることとする⁶⁾。

Ⅱ 八尾市及びミュージアムの概要

1) 八尾市の概要

八尾市は、大阪府中央部東側に位置する。市の北側は東大阪市、西側は大阪市、南側は松原市・藤井寺市・柏原市に、また、東側は奈良県生駒郡平群町・三郷町に接している。八尾市の人口は、2018年6月1日の時点で、267,009人、世帯数は123,839世帯を数え⁷⁾、平成30年4月より中核市となっている。市域の面積は41.72km²を測り、市の東側は金剛生駒紀泉国定公園の指定を受ける生駒山系の山々が屹立し、西側には市街地が広がりを見せ大阪市へと連続する。交通等については、JR西日本旅客鉄道・近畿日本鉄道・Osaka Metro谷町線の鉄道3社が軌道を有し、高速道路である近畿自動車道や国道25号線・国道170号線(大阪外環状線)・府道2号線(大阪中央環状線)などの大阪府下においても主要な道路が走る。また、定期旅客便の運行は見られないが八尾空港が所在する。

2) 八尾市内のミュージアム

八尾市内に所在するミュージアムについてここで小項を設ける⁸⁾。なお、安中新田会所跡旧植田家住宅については、次項に取り上げて詳細に記述する。

①八尾市立歴史民俗資料館

八尾市立歴史民俗資料館は、八尾市千塚に所在する。市内の文化財などを収集・保管・展示して広く一般に公開する施設として、昭和62年11月に開館している。当初は、八尾市により管理・運営がなされていたが、平成19年度からは、指定管理者制度により、公益財団法人八尾市文化財調査研究会がその任にあたっている。

八尾市立歴史民俗資料館の建物は2階建てで、1階には常設展示「大和川流域と高安山—その歴史と文化—」に関する資料を3つのテーマに分けて展示している。2階には「河内木綿体験コーナー」などが設けられている。

②八尾市立しおんじやま古墳学習館

八尾市立しおんじやま古墳学習館は、八尾市大竹に所在する史跡心合寺山古墳に付設されたガイダンス施設である。

史跡心合寺山古墳は、古墳時代中期に造られた前方後円墳で、全長約160m、高さ約13mを測る中河内最大の古墳である。古墳は三段築成で、くびれ部西側に造り出しがあり、平坦面に円筒埴輪や朝顔型埴輪など、3,000本以上の埴輪が並べられていたと考えられ、墳丘斜面は、葺石で覆われていたことが確認されている。埋葬施設は後円部に3つの粘土槨が、前方部では木棺1基が検出されている。埋葬施設からは、青銅鏡・甲冑・大刀・勾玉などの副葬品が出土している。昭和41年(1966)2月25日に国指定史跡に指定され、平成5年(1993)から平成15年(2003)にかけて「史跡整備事業」に伴う本格的な発掘調査が実施され、平成13年(2001)から平成17年(2005)にかけて整備工事が行われた。史跡整備に伴い、再現された埋葬施設や出土した埴輪や遺物の展示、映像コーナーなどにより構成される展示室をはじめ、ガイダンスホールや書籍が閲覧できる古墳情報コーナーなどが設けられたガイダンス施設として八尾市立しおんじやま古墳学習館が併設された。なお、八尾市立しおんじやま古墳学習館は、平成17年(2005)4月の開館当初より現在まで、指定管理者制度のもと、特定非営利活動法人歴史体験サポートセンター楽古により管理運営がなされている。

③今東光資料館

今東光資料館は、八尾市本町の八尾図書館3階に所在する。

今東光は、八尾市西山本町に所在する天台宗寺院である「天台院」の住職として八尾市に在住し、河内の歴史・文化に触れながら、多くの作品を創作した小説家である。第36回直木賞を受賞した小説である「お吟さま」のほか、「闘鶏」・「山椒魚」「みみずく説法」・「弓削道鏡」などを世に産み出したが、これらの作品の多くが映画化されたため、その存在は広く知られるこ

ととなった。また、谷崎潤一郎や川端康成ら、多くの文化人との盛んな交流、参議院議員として政治世界への参画、岩手県平泉に所在する中尊寺の貫主を務めるなど、小説家という枠に留まらず、生涯、多彩な才能を披露し続けた人物であった。

今東光資料館では、「今東光の素顔」・「今東光の生涯」・「今東光の書籍」・「今東光が出会った人々」・「今東光と河内八尾風土記」・「今東光の書齋と語り」などのコーナーを設けて、「河内・八尾の文化を愛した作家・今東光の文学及び活動の紹介を通じて、八尾市の魅力を発見・発信し、文芸の奥深い世界にふれることのできる資料館⁹⁾」として開館されている。

④八尾市まちなみセンター(寺内町ふれあい館)

八尾市まちなみセンターは、八尾市久宝寺3丁目に所在する施設で、その愛称を寺内町ふれあい館と称する。

八尾市まちなみセンターは、久宝寺寺内町における歴史的遺産の継承やまちづくりにおける活動拠点となることを目的として設置された施設で、展示室・研修室・会議室などがある。小さなスペースではあるが、展示室には寺内町に関連するパネルなどが展示されている。当初は八尾市により管理・運営がなされていたが、平成26年度よりNPO法人寺内町久宝寺が指定管理者として、その任にあたっている。

Ⅲ 安中新田会所跡旧植田家住宅の事業展開

1) 安中新田会所跡旧植田家住宅の概要

旧植田家住宅は、旧大和川主流である長瀬川の左岸に位置する。宝永元年(1704)の大和川の付け替えによって開発された「安中新田」の会所(屋敷)の地を継承したものである。

残存する建物は、新田開発がなされた以降のもので、江戸時代後期の主屋や土蔵、明治時代中期の表門や控舎、大正時代後期の土蔵などであり、平成18年(2006)3月に国登録有形文

化財に、平成18年(2006)6月に八尾市指定文化財及び史跡に指定されている。「大阪府下にあった新田会所の多くは失われており、会所の建物と地を継承した旧植田家住宅は、江戸時代の集落の成立とともに高く評価され、現在の歴史景観からみても貴重な建造物¹⁰⁾」である当該文化財は、平成21年(2009)5月から一般に公開されている。なお、当施設は指定管理者制度を採用し、特定非営利活動法人HICALIにより、その管理・運営がなされている¹¹⁾。

2) 安中新田会所跡旧植田家住宅の事業展開

安中新田会所跡旧植田家住宅では、正規雇用職員2名、アルバイト雇用職員4名の職員体制が取られている。このうち、学芸業務に携わる職員は、正規職員1名、アルバイト雇用職員1名の合計2名である。この職員体制をもって以下のような内容で業務を展開する。なお、本稿では平成28年度における事業について取り上げる¹²⁾。

①地域連携

□永畑幼稚園の畑指導

毎年、「なにわの伝統野菜」などを栽培している八尾市立永畑幼稚園の園児(年長)のサポートを行う事業である。平成28年度は黒門越瓜・田辺大根・勝間南瓜などの種まきや苗植えなどを指導している。

開催日：4月11日・4月27日・5月18日・
6月2日・9月5日・9月16日・
10月31日

□地域のふれあい昔遊び

永畑地区女性会・植松東青年団・植松地区子供会有志・八尾市野外活動協会などの団体とともに地域の子どもを対象に様々な体験を提供する「地域のふれあい昔遊び」に参加して「けん玉大会」を担当している。なお、当該事業については洪川神社で開催された。

開催日：5月22日
参加者：約200名

□JR八尾駅前花壇関連

永畑小学校まちづくり協議会・龍華コミュニティセンター・JR八尾駅・地域住民などにより、JR八尾駅南側駅前の花壇の花植えなどを行い、地域の美化活動を展開しているが、当該事業において永畑小学校児童（3年生・4年生）と河内木綿の苗植えや収穫を行なっている。

開催日：5月12日・5月16日・9月9日・9月29日・10月24日

参加者：349名

□永畑小学校区まちづくり協議会「世代間交流フェスタ」

小学校児童・小学校教員・各種団体・地域住民が交流する場の1つである「世代間交流フェスタ」において、学芸員が「植松のまちの歴史を学ぶ」というタイトルで講演を行った。なお、講演の内容は地域の変遷や大和川の付け替えの歴史などであった。当該事業については、永畑小学校で開催された。

開催日：12月4日

□河内木綿まつり

市内の文化財を収集・保管・展示し、調査研究する施設である八尾市立歴史民俗資料館が主催する「河内木綿まつり」に協力団体として参加し、綿繰り・糸つむぎ・ミニ機織り体験、また、「寺尾和一郎氏の河内木綿関連資料」の展示などを行っている。

開催日：9月17日・18日

参加者：67名

□やおのミュージアム福袋ツアー

史跡心合寺山古墳に付設されたガイダンス施設である八尾市立しおんじやま古墳学習館と阪南大学国際観光学部和泉研究室（筆者の研究室）のコラボレーション企画である。

このツアーは「八尾市内には複数のミュージアムなどの施設があるが、これらを一体的に見せた方が、地域資源としてより魅力的に、より目立つようになるのではないか」、「ミュージアムには「つなぐ」・「つながる」という機能があるが、ミュージアムどうしを「つなげて」みよう」、また、「観光資源としてのミュージアムの可能性を見出そう」という発想をもとにしている。ツアーの内容は、八尾市立今東光資料館→安中新田会所跡旧植田家住宅→リサイクルセンターめぐる→八尾市立しおんじやま古墳学習館→八尾市立歴史民俗資料館の5つの施設をまわりながら、学芸員による説明を受けたり、その施設に特徴的な体験プログラムを体験するというものであった。安中新田会所跡旧植田家住宅においては、「かまどで炊いたご飯の試食」・コマ回しやけん玉などの「昔遊び体験」をツアーの参加者へ提供した。

開催日：3月19日

参加者：15名

□チャレンジ80

八尾市役所の環境保全課が主催するスタンプラリーイベントのポイントの1つとして参加した。建物見学・後述する旧家での納涼体験などを提供している。

開催日：7月29日・11月19日

参加者：16名

□八尾っ子おしごと体験

小学生高学年を対象とした「仕事体験事業」において、館の清掃活動などの施設維持管理業務、展示などの学芸業務の体験を提供した。

開催日：8月10日

参加者：9名

□いきいき八尾環境フェスティバル

西武百貨店八尾・アリオ八尾・大阪経済法科大学花岡キャンパスにおいて同時開催された、八尾環境フェスティバルにおいて「昭和の昔遊び体験」のブースを出店した。当該事業については西武百貨店八尾で開催された。

開催日：10月23日

参加者：延べ9,748名

Oct. 2018

地域における小規模ミュージアムの事業展開への一考察

企業体感プログラム

大阪経済法科大学のインターンシップ見学プログラムにおいて、「八尾の歴史と文化」をテーマにした体験講座・見学会などで協力している。

開催日：8月25日・3月3日

参加者：27名

えほんマルシェ

子どもの育ちを見守る親の会が主催する「えほんマルシェ」に「昔遊び体験」で参加した。当該事業については、龍華コミュニティセンターにおいて開催された。

開催日：11月5日

参加者：200名

②学校教育

学校園からの見学の受け入れ及び出前授業

学校園からの見学の受け入れ及び出前授業は別表のとおりである。実施校の数を昨年度と比較すると、前者は1校増、後者は1校減であった。内容については、前者では「昔のくらしと道具」が、後者では「校区の昔」が多い。なお、「見学後、休日などに家族を連れて見学に来てくれる子どもの数が例年よりも多く¹³⁾」になっているという。

実施日・参加者：表1・表2を参照

指導者向け研修講座

八尾市教育サポートセンターが主催する小学校・中学校教員を対象とした研修会で「大和川の付け替えと河内木綿」というテーマで講座・見学会を行った。

開催日：8月4日

参加者：10名

高校・大学の見学などの受け入れ

柏原高校・八尾高校茶道部・大阪経済法科大学・大阪樟蔭女子大学・阪南大学などから見学を受け入れている。

受け入れ日：6月1日・7月16日・8月21日・
8月25日・9月10日・2月22日

3月3日

受け入れ人数：97名

③生涯学習

連続講座

1つのテーマをもとに前期3回・後期3回の合計6回の内容で構成される連続講座である。前期のテーマは「水」、後期のテーマは「会所」であった。前期については、安中新田会所跡旧植田家住宅の学芸員などが「大和川の付け替えを学ぼう」などを内容とする講座をおこなっている。後期に関しては外部から講師を招き、「平野新田会所～発掘調査の成果から～」（大東市教育委員会生涯学習課）、「加賀屋新田会所～加賀屋新田開発の沿革と新田会所の魅力～」（住之江のまち案内ボランティアの会）、「鴻池新田会所～鴻池新田の災害～」（鴻池新田会所）などを内容とする講座をおこなっている。

開催日：6月26日・7月31日・8月28日・
1月8日・2月12日・3月12日

参加者：27名

ぶらりまちあるき

「旧大和川を歩く」というシリーズのまちあるき事業である。JR志紀駅からJR八尾駅間を約3時間かけて旧大和川の歴史や地形を感じながら歩いた。

開催日：4月9日

参加者：11名

八尾再発見！映像に見る八尾

植田家に残る9.5ミリ・16ミリのフィルムにより、昭和初期の植田家や大阪の町の様子を知るといふ企画である。また、平成22年に作成したパネルにより、往時と現在のまちなみの変化などを比較するというミニ展示もおこなった。

開催日：6月11日～19日

参加者：123名

こどものためのお茶会

地域の女性会から講師を招いてお茶席を設け

表1 平成28年度における学校園からの見学受け入れ状況

※()の数字はクラス数

| 日付 | 学校園名 | 学年等 | 生徒数 | 引率者数 | 合計 | 内容 | |
|----------|---------|-------|------|------|----------|-----------|--|
| 5月19日(木) | 永畑幼稚園 | 年長・年少 | 44人 | 4人 | 48人 | かまどで豆ご飯炊き | |
| 9月9日(金) | 志紀幼稚園 | 星組・空組 | 42人 | 6人 | 48人 | ご飯炊き+綿繰り | |
| 10月6日(木) | 城南学園小学校 | 4年(2) | 65人 | 5人 | 70人 | 旧大和川+ミニ講座 | |
| 1月16日(月) | 安中小学校 | 3年(3) | 92人 | 4人 | 96人 | 昔のくらしと道具 | |
| 1月18日(水) | 八尾小学校 | 3年(3) | 90人 | 6人 | 96人 | 〃 | |
| 1月20日(金) | 龍華小学校 | 3年(3) | 114人 | 6人 | 120人 | 〃 | |
| 1月26日(木) | 亀井小学校 | 3年(3) | 111人 | 6人 | 117人 | 〃 | |
| 1月30日(月) | 加美小学校 | 3年(2) | 84人 | 8人 | 92人 | 〃 | |
| 2月1日(水) | 柏原東小学校 | 3年(2) | 70人 | 5人 | 75人 | 〃 | |
| 2月6日(月) | 永畑小学校 | 3年(3) | 84人 | 3人 | 87人 | 〃 | |
| 2月9日(木) | 高美南小学校 | 3年(2) | 45人 | 2人 | 47人 | 〃 | |
| 2月10日(金) | 長瀬西小学校 | 3年(2) | 50人 | 4人 | 54人 | 〃 | |
| 2月15日(水) | 曙川東小学校 | 3年(2) | 47人 | 4人 | 51人 | 〃 | |
| 2月16日(木) | 高美小学校 | 3年(3) | 87人 | 6人 | 93人 | 〃 | |
| 2月17日(金) | 竹濑小学校 | 3年(1) | 35人 | 4人 | 39人 | 〃 | |
| 2月23日(木) | 志紀小学校① | 3年(2) | 66人 | 3人 | 69人 | 〃 | |
| 2月24日(金) | 志紀小学校② | 3年(2) | 67人 | 3人 | 70人 | 〃 | |
| 3月8日(水) | 永畑幼稚園 | 年長 | 22人 | 2人 | 24人 | 卒園前挨拶見学 | |
| 3月17日(金) | 曙川小学校 | 3年(2) | 55人 | 5人 | 60人 | 昔のくらしと道具 | |
| 合計 | | | | | 19回(17校) | 1,356人 | |

出所)『八尾市指定文化財安中新田会所跡旧植田家住宅年報(平成28年度)』, 2017年, 安中新田会所跡旧植田家住宅指定管理者NPO法人HICALI, 15ページから転載

表2 平成28年度における学校園への出前授業の状況

※()の数字はクラス数

| 日付 | 学校園名 | 学年等 | 生徒数 | 教員数 | 合計 | 内容 | |
|-----------|--------|-------|------|-----|----------|----------|--|
| 10月7日(金) | 長池小学校 | 4年(3) | 101人 | 3人 | 104人 | 大和川+校区の昔 | |
| 10月13日(木) | 竹濑小学校 | 4年(1) | 35人 | 3人 | 38人 | 〃 | |
| 10月19日(水) | 高安西小学校 | 4年(3) | 87人 | 3人 | 90人 | 〃 | |
| 11月2日(水) | 山本小学校 | 4年(3) | 97人 | 3人 | 100人 | 〃 | |
| 11月25日(金) | 永畑幼稚園 | 年長組 | 22人 | 3人 | 47人(注) | 河内木綿体験 | |
| 11月28日(月) | 高美小学校 | 4年(3) | 77人 | 4人 | 81人 | 大和川付替え | |
| 1月19日(木) | 亀井小学校 | 3年(3) | 116人 | 3人 | 119人 | 昔のくらし+校区 | |
| 1月23日(月) | 美園小学校 | 3年(2) | 77人 | 2人 | 79人 | 〃 | |
| 2月2日(木) | 大正北小学校 | 3年(3) | 92人 | 4人 | 96人 | 〃 | |
| 2月8日(水) | 曙川東小学校 | 3年(2) | 50人 | 2人 | 52人 | 〃 | |
| 2月20日(月) | 高安小学校 | 3年(2) | 37人 | 4人 | 41人 | 校区の昔 | |
| 2月22日(水) | 南高安小学校 | 3年(4) | 141人 | 4人 | 145人 | 昔のくらし | |
| 3月1日(水) | 東山本小学校 | 3年(2) | 72人 | 3人 | 75人 | 昔のくらし+校区 | |
| 3月2日(木) | 西山本小学校 | 3年(1) | 37人 | 4人 | 41人 | 〃 | |
| 合計 | | | | | 14回(14校) | 1,108人 | |

出所)『八尾市指定文化財安中新田会所跡旧植田家住宅年報(平成28年度)』, 2017年, 安中新田会所跡旧植田家住宅指定管理者NPO法人HICALI, 16ページから転載し, 一部, 加筆・修正
 (注)うち22人は保護者

Oct. 2018

地域における小規模ミュージアムの事業展開への一考察

た新年のイベントである。

開催日：1月15日

参加者：12名

④文化財を活かした活用

□ギャラリートーク

学芸員が、企画展の開催期間中の祝日を中心に展示内容などを解説するものである。

開催日：5月5日・7月18日・8月11日・
11月23日・2月11日

参加者：計18名

□こどもガイド体験講座

建物の見学・黒電話などの昔の道具に触る体験・障子の張替え体験などを内容とする体験講座である。

開催日：7月28日・12月10日

参加者：6名

□防災！かまどでご飯炊き体験

防災の意識を高め、有事においてもかまどでご飯が炊けるように、その技術を学ぶという講座である。

開催日：9月3日

参加者：12名

□すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」

正月飾りの鏡餅と試食用のお餅を作る体験講座で、毎年参加者が増加を続ける人気の講座である。

開催日：12月23日

参加者：150名

⑤講座

□講座

5月には「八尾と今東光」岡本俊樹氏（今東光資料館）、7月には「古文書・発掘調査からみる八尾の地震痕跡」消斎氏（八尾市文化財課）・「豪農層の文化受容」山中浩之氏（大阪府立大学名誉教授）の2本立て、12月には「古文書に見る植田家」北林千鶴氏（八尾市史編纂室）を内容と

する講座を行った。

開催日：5月28日・7月16日・12月18日

参加者：48名

⑥講演会

□講演会

企画展に関連して「浮世絵～上方役者絵の話～」北川博子氏（あべのハルカス美術館）という講演会を行った。

開催日：10月30日

参加者：12名

⑦提案事業

□河内木綿（綿くり・糸つむぎ）体験

毎月第1土曜日に綿くり・糸つむぎなどの「河内木綿体験」を実施している。

開催日：4月5日・5月7日・6月4日・
7月2日・8月6日・9月3日・
10月1日・11月5日・12月3日・
1月7日・2月4日・3月4日

参加者：48名

□むかし遊び体験

毎月第3日曜日はコマ回し・けん玉・おはじき・お手玉などの「むかし遊びの日」を実施している。

開催日：4月17日・5月15日・6月19日・
7月17日・8月21日・9月18日・
10月16日・11月20日・12月18日・
1月15日・2月19日・3月19日

参加者：173名

□体験農園（畑企画）

施設内の約3.5坪（11.5㎡）の畑において「なにわの伝統野菜」などを栽培している。なお、参加者は登録制である。「自分たちで育てて収穫し食べる」という企画は親子交流、食育、地域コミュニティの場¹⁴⁾としても機能しているという。

開催日：4月17日・4月24日・5月8日・
6月12日・7月24日・8月21日・

9月4日・9月18日・10月23日・
11月2日～30日・12月10日・
12月11日・2月9日

登録者：31名

□施設周辺写生作品展示

施設のギャラリーにおいて、一般作品を公募して期間中に展示を行なっている。

開催日：1月5日～1月30日

出展者数：8名

□植松灯籠の日(夜間開館)

庭に移設等がなされている10基の石灯籠に明かりを灯して夜間開館を行なっている。

開催日：5月7日・11月19日

参加者：190名

□納涼企画「冷やし旧家ははじめました」

井戸水に足をつける「足水体験」,「簾戸と蚊帳の展示」,「ラムネなどの飲料販売」などを内容とする納涼企画である。

開催期間：7月9日～9月11日

開催期間中の入館者：1,035名

□企画展関連企画「夏のお茶会」

企画展「植田家のお茶道具」の関連企画として、八尾高校茶道部の協力を得てお茶席を設けている。

開催日：8月21日

参加者：33名

⑧自主事業

□コンサート八尾の音楽家「旧家でBossa」

八尾市在住のアーティストなどを招いて、ボサノバのコンサートを行なった。

開催日：11月26日

参加者：45名

□旧家で楽しむ食事会

施設内で栽培した「なにわの伝統野菜」,「かまどで炊いたご飯」などを植田家に伝わる食器

でいただく食事会を行なっている。

開催日：11月20日

参加者：20名

□旧家で楽しむ落語会

落語を楽しみながら、落語に登場する風習や文化を理解する機会の提供として落語会を開催している。

開催日：2月26日

参加者：43名

□その他

「ミュージアムグッズの販売」(小物入れ・コースター・ブックカバー・ペンケースなど)や「飲料の提供」(ラムネ・みかん水)などを行なっている。

⑨展示業務

□常設展示「新田会所と植田家の暮らし」

□通常展示「大和川付け替え関連展示」

開催期間：9月15日～10月19日・3月9日～
4月24日

開催期間中の入館者：1,103名

□企画展示(春季)「ほく、墨蹟(ほくせき)」

開催期間：4月28日～6月27日

開催期間中の入館者：891名

□企画展示(夏季)「植田家のお茶道具」

開催期間：7月2日～9月11日

開催期間中の入館者：1,081名

□企画展示(秋季)

「植田家にのこる浮世絵?!」

開催期間：10月22日～12月23日

開催期間中の入館者：1,285名

□企画展示(冬季)「昔のくらしの道具365日」

開催期間：1月5日～3月5日

開催期間中の入館者：1,729名

Oct. 2018

地域における小規模ミュージアムの事業展開への一考察

⑩他の施設や団体との連携

□四会所交流会

大阪府下の鴻池新田会所（東大阪市）・加賀屋新田会所（大阪市）・平野屋新田会所（大東市）と安中新田会所の4つの会所による交流会が定期的に開催されている。

□河内の古民家めぐりスタンプラリー

関西文化の日を記念して河内の古民家8ヶ所を巡るスタンプラリーのポイントの1つとなっている。

開催期間：11月1日～30日

参加者：84名

⑪その他

「文化財の保存・貸し出しに関する業務」や「広報・出版に関する業務」を行なっている。

3) 小結

平成28年度については、以上のような事業の展開がなされていた。これらの事業については、表3のように、その内容から「展示」・「講演等」・「学校教育」・「体験（館内）」・「体験（館外）」・「その他活動」と大きく6項に分類することができる。「展示」・「講演等」・「学校教育」・「体験（館内）」・「体験（館外）」については、多くのミュージアムにおいて取り組まれている事業であると考えられる。ここでは「その他活動」に注目したい。

「その他活動」には、「永畑幼稚園の畑指導」・「JR八尾駅前花壇関連」・「四会所交流会」・「ミュージアムグッズの販売」や「飲料の提供」・「スタンプラリー」・「文化財の保存・貸し出しに関する業務」や「広報・出版に関する業務」がこれに該当する。このうち、「四会所交流会」については、所謂、関連するミュージアム間のネットワーク交流・会議と考えられる事業であり、各地で散見できるものである。また、「ミュージアムグッズの販売」や「飲料の提供」・「スタンプラリー」・「文化財の保存・貸し出しに関する業務」や「広報・出版に関する業務」な

どの事業についても、多くのミュージアムに確認できる。本稿では、「永畑幼稚園の畑指導」・「JR八尾駅前花壇関連」に注目したい。

「畑指導」や「花壇整備」という両事業は、一見、ミュージアムの業務と考えられるものではない。しかし、内容を鑑みると決して無関係とは言えないのである。「畑指導」は、トマトやキュウリ、ナスビなどの一般的な野菜を対象とした園芸講座ではない。江戸時代より作られてきた黒門越瓜、勝間南瓜、田辺大根などの「なにわの伝統野菜」の栽培指導を行なっているのである。園児が対象とは言え、早い段階から地域の文化に触れる機会や「ミュージアムのお兄さんが先生」という状況の提供は、園児や保護者、幼稚園にとっても、また、地域のミュージアム施設である安中新田会所跡旧植田家住宅にとっても、すなわち、双方にとって意味があるものと考えられる。

そして、この事業には複数の関連する事業がある。「⑦提案事業」の項目であげた「体験農園（畑企画）」がそれである。先に記したように、この事業は、施設内の約35坪（11.5㎡）の畑において「なにわの伝統野菜」などを栽培するという事業である。事業では作ったものを毎年12月に大阪府が実施する「田辺大根フェスタ」へも出品しているそうであるが、自分たちが自分たちの地域で育てた「なにわ伝統野菜」を出品して評価を得るというプロセスの提供は、地域アイデンティティの確立につながる可能性も秘められた事業プログラムであると考えられるのである。さらに、この事業は「旧家で愉しむ食事会」という事業に連動する。この食事会は、旧植田家住宅に残る食器などを使用して、自分たちが育てた「なにわの伝統野菜」を食材とするメニューなどの食事を愉しむというものであるが、往時の植田家における食事シーンの再現という意味では、「なにわの伝統野菜」も往時を表す資料と考えられなくもない。また、これらの連続性のある事業については、「自分たちで育てて収穫し食べるという企画は親子交流、食育、地域コミュニティの場¹⁵⁾」としても機能し

表3 平成28年度安中新田会所跡旧植田家住宅における事業展開の分類

| 事業名称 | 展示 | 講演等 | 学校教育 | 体験(館内) | 体験(館外) | その他活動 |
|---------------------------|----|-----|------|--------|--------|-------|
| 永畑幼稚園の畑指導 | | | | | | ○ |
| 地域のふれあい昔遊び | | | | | ○ | |
| JR 八尾駅前花壇関連 | | | | | | ○ |
| 永畑小学校区まちづくり協議会「世代間交流フェスタ」 | | ○ | | | | |
| 河内木綿まつり | | | | ○ | | |
| やおのミュージアム福袋ツアー | | | | ○ | | |
| チャレンジ80 | | | | ○ | | |
| 八尾っ子おしごと体験 | | | | ○ | | |
| いきいき八尾環境フェスティバル | | | | | ○ | |
| 企業体感プログラム | | | | ○ | | |
| えほんマルシェ | | | | | ○ | |
| 学校園からの見学の受け入れ及び出前授業 | | | ○ | | | |
| 指導者向け研修講座 | | | ○ | | | |
| 高校・大学の見学などの受け入れ | | | ○ | | | |
| 連続講座 | | ○ | | | | |
| ふらりまちあるき | | | | | ○ | |
| 八尾再発見！映像に見る八尾 | | ○ | | | | |
| こどものためのお茶会 | | | | ○ | | |
| ギャラリートーク | | ○ | | | | |
| こどもガイド体験講座 | | | | ○ | | |
| 防災！かまどでご飯炊き体験 | | | | ○ | | |
| すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」 | | | | ○ | | |
| 講座 | | ○ | | | | |
| 講演会 | | ○ | | | | |
| 河内木綿（綿くり・糸つむぎ）体験 | | | | ○ | | |
| むかし遊び体験 | | | | ○ | | |
| 体験農園（畑企画） | | | | ○ | | |
| 施設周辺写生作品展示 | ○ | | | | | |
| 植松灯籠の日（夜間開館） | | | | ○ | | |
| 納涼企画「冷やし旧家はじめました」 | | | | ○ | | |
| 企画展関連企画「夏のお茶会」 | | | | ○ | | |
| コンサート八尾の音楽家「旧家で Bossa」 | | | | ○ | | |
| 旧家で楽しむ食事会 | | | | ○ | | |
| 旧家で楽しむ落語会 | | | | ○ | | |
| ミュージアムグッズの販売・飲料の提供 | | | | | | ○ |
| 展示 | ○ | | | | | |
| 四会所交流会 | | | | | | ○ |
| 河内の古民家めぐりスタンプラリー | | | | | | ○ |
| 文化財の保存・貸し出しや広報・出版に関する業務 | | | | | | ○ |

ていると評されている。

「花壇の整備」については、各地でよく見かけるような、駅前花壇などに美しい花々を植える単なる美化運動というものではない。かつて盛んであった河内木綿を駅前花壇に植え、育てているのである。そして、ここで取れた綿については、安中新田会所跡旧植田家住宅の館内で展開される河内木綿関係の事業などで活用がなさ

れているため、自分たちで育てて活用するというプロセスが見出せる。

このように両事業は、単発的な体験プログラムではないし、イベントでもない。単なる奉仕活動でもない。計画的・継続性を持って関わっていくプロジェクト的な発想が認められる事業なのである。ここには、「展示」・「講演等」・「学校教育」・「体験(館内)」・「体験(館外)」の事業

展開に比して、ミュージムの「人」や「地域」への継続的、且つ、積極的関与が顕著に看取されるのである。

Ⅳ まとめ

以上のように、地域に根ざしたミュージアムの事業展開に着目し、その有効な事業展開について考察を加えるべく、大阪府八尾市に所在する安中新田会所跡旧植田家住宅における取り組みを事例として取り上げた。プロジェクト的な発想を持った連続性のある事業の展開は、同じ人が年に複数回、安中新田会所跡旧植田家住宅を利用するという状況を生み出すことにつながるため、安中新田会所跡旧植田家住宅が地域における「小さな拠点¹⁶⁾」と成り得る可能性を創造するのではないかと考えられる。また、先に記したように、「地域コミュニティの場」の生成に有効に機能するとも考えられるのである。すなわち、地域というコンテキストでミュージアムを思考するならば、1度だけというようなテンポラリーな関わりではなく、コンティニュアルな関わりが生成されるような展開が重要ではないかと考えられるのである。

そして、ここには、地域エンパワーメント¹⁷⁾に地域の方々が加担するという実践に繋がる可能性が見出され、地域づくりなどのコンテキストにおいて有効に機能すると考えられるのである。

[謝 辞]

安中新田会所跡旧植田家住宅の指定管理者としてその管理・運営にあたるNPO法人HICALIの澤田知英子氏・安藤亮氏には多くをご教示いただきました。記して感謝します。

注

- 1) 法の改正については、下記を参照した。
文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律等について
<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/1402097.html> (2018.07.03 アクセス)

文部科学省設置法改正

http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/kino_kyoka/1406220.html (2018.07.03 アクセス)

- 2) 二十九庁財九十八号平成二十九年諮問第三十三号「これからの文化財の保存と活用の在り方について」平成二十九年五月十九日
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/bunkazai/kikaku/h29/01/pdf/shiryo_3.pdf (2018.07.03 アクセス)
- 3) 博物館法第2条
- 4) イコム規約(2017年6月改訂)第3条用語の定義第1項博物館
https://www.j-muse.or.jp/icom/ja/pdf/ICOM_regulations.pdf (2018.07.03 アクセス)
- 5) 博物館及びその収集品並びにこれらのも多様性及び社会における役割の保護及び促進に関する勧告(仮訳)2015年11月17日第38回ユネスコ総会採択I博物館の定義及び多様性
<http://www.mext.go.jp/unesco/009/1393875.htm> (2018.07.03 アクセス)
- 6) 本稿で取り上げた安中新田会所跡旧植田家住宅は、所謂、博物館法の博物館施設には該当しないが、資料の展示や体験プログラムなど、博物館が行う事業を展開しているという観点から、本稿では博物館施設として扱っている。また、八尾市立歴史民俗資料館や史跡心合寺山古墳のガイダンス施設である八尾市立しおんじやま古墳学習館、八尾市図書館に併設されている今東光資料館、久宝寺寺内町に所在するまちづくりの拠点施設である八尾市まちなみセンターなどについても同様の観点から博物館施設として取り上げている。なお、本稿ではこれらを総称してミュージアムとした。
- 7) 八尾市における人口や世帯数については、下記を参照した。
八尾市HP <http://www.city.yao.osaka.jp> (2018.07.03 アクセス)
- 8) この項については、下記を参照した。
①八尾市立歴史民俗資料館
八尾市立歴史民俗資料館HP
<http://www17.plala.or.jp/yaorekimin/> (2018.07.03 アクセス)
②八尾市立しおんじやま古墳学習館
八尾市立しおんじやま古墳学習館については、かつて別稿で触れたことがある。ここではその際の文章を一部略・一部改変して、引用している。拙稿「史跡の活用と博物館—史跡・遺跡の観光資源化への序論—」『阪南論集』人文・自然科学編、第52巻第2号、48ページ
③今東光資料館
八尾市立図書館HP
<https://web-lib.city.yao.osaka.jp/kontoko.html>

(2018.07.03 アクセス)

④八尾市まちなみセンター

久宝寺寺内町 HP

<http://kyu-machinami.or.jp/centre>

(2018.07.03 アクセス)

9) 八尾市 HP「今東光資料館について」

<http://www.city.yao.osaka.jp/0000025789.html>

(2018.07.03 アクセス)

10) 安中新田会所跡旧植田家住宅 HP「旧植田家住宅とは？」

<http://kyu-uedakejutaku.jp> (2018.07.03 アクセス)

11) この項については、前掲注 10) を参照した。

12) 事業については、『八尾市指定文化財安中新田会所跡旧植田家住宅年報(平成 28 年度)』安中新田会所跡旧植田家住宅指定管理者 NPO 法人 HICALI, 2017 年を参考に記した。なお, ①地域連携・②学校教育・③生涯学習・④文化財を活かした活用・⑤講座・⑥講演会・⑦提案事業・⑧自主事業・⑨

展示業務・⑩他の施設や団体との連携・⑪その他という分類タイトルについては、年報の分類をそのまま用いた。

また、事業については、当該施設の学芸員(正規雇用)である安藤亮氏に様々にご教示いただいた(2018 年 6 月 28 日: ヒアリング実施)。

13) 前掲注 12) 15 ページ

14) 前掲注 12) 29 ページ

15) 前掲注 14)

16) ミュージアムに特化したものではないが、例えば、田中きよむ編『小さな拠点を軸とする共生型地域づくり』, 2018 年, 晃洋書房など, 「小さな拠点」を軸とする地域づくりに関しては、多くの研究・実践が進められている。

17) ここでは、「地域における魅力の湧出」の意味で使用している。

(2018 年 7 月 12 日掲載決定)